

## 2013年度 公益社団法人 鎌倉青年会議所 理事長報告

第49代理事長 酒井 武士

「精神一到何事か成らざらん」

私が掲げた本年度のテーマの語源であり、精神を集中して事に当たればどんな事でも成し遂げられる、という意味である。鎌倉の地に誕生してより49年目の鎌倉青年会議所として、我々に求められるものは何か。半世紀を経てなお発展するべく活動する布石の年と定義するにあたり必要な資質、組織作りには何が必要かを考え設けた言葉である。

青年会議所は単年度毎に組織が変わり、その年の理事長所信に基づいて活動を行う。

では、その理事長は何を基に所信を書くのだろうか。日本J.Cの流れを組むのか。中長期な活動指針、鎌倉でいえば中期ビジョンに沿う形とするのか。或いは理事長がその時にやりたい事を追求するのか。会員にとってその年の拠り所と成るべき所信に求められるものは何なのだろうか。私は状況の判断と将来の展望が重要なのだと考える。折に触れて話をしたが、常に自分の立ち位置という物を見極めて考え、行動する事が必要であると思う。それは組織に於いての自分の役割然り、又は時間軸の中での点から線を導く事である。その視点に立って物事を整理し重要な事柄を判断すれば、自ずと方向性は見えて来るものである。私が考える青年会議所の理事長像とはそれを明確に現し言葉で伝え、体現する者であるべきだと思う。

次に、鎌倉に於いての青年会議所運動について触れてみたい。

まずは継続事業である慈善茶会。当会議所を代表するこの事業は本年で45回を数えた。慈善茶会は当初の理念より変化を重ね、記念事業から研修事業へ、そして現在はまちづくりや青少年事業の一環として開催が為されている。多くの協力者と賛同者の力を頂かなければ達成出来ないこの事業は、この先何処へ向かって行けば良いのだろうか。会員数は減少し、景況の好転も未だ実感するには至らない時勢の中、漫然と例年通りの開催を続ける事には困難が付き纏う。伝統を守る事と、遺産を食い潰す事を我々は履き違えてはいないか。今の時代に適した開催の仕方、運営の方法を考えるのがこの先の我々の務めであり、慈善茶会の将来を真剣に考えるべき時期に差し掛かっているのである。近年、まちづくり事業は主に対象者を青少年やその親世代として鎌倉の魅力を伝える事を主眼とする物が多いように思う。我々が地域に根差した団体として鎌倉という土地を理解しその魅力を将来の世代に伝える事は有意義であり、会員にとっても達成感を得られ易く、青年会議所運動の醍醐味を感じる事の出来る貴重な機会である。その観点より考えると、半世紀を経た当会議所として慈善茶会と比肩し得るまちづくり事業の柱を構築する事は重要な手立てであろう。

各地青年会議所の例に漏れず、当会議所でも会員の減少傾向と主席率の低下は大きな課題である。会員の拡大に必要な事柄として多くの対象者と出会うという事もあるが、問題

はその後の対応であると思う。対象者から見た組織と会員はどの様に映るのか。拡大は数値という結果が全てと言われるが、目先の目新しさや楽しみばかりに誤魔化されて入会しても、幻滅されてしまうのが落ちだろう。対象者に対しては会員が会の本分を理解し伝える事で拡大を成し、多くの出会いや経験を積めるよう設える事が重要なのだと考える。そして会員は研修事業に参加する中で己の資質を高め、会と地域、社会に貢献すべく活動を行わなければならない。

「会議」という言葉が付くだけあり、青年会議所に於いて諸会議は重要な位置を占める。各会員が均等の会費負担をする会では合議制に依って運動を、事業の決定を行う必要があるからである。その会議に求められるのは資料作成の正確さと構成員の明快で的確な意思であり、会議での決定事項に従う真摯な姿勢である。会議を開催し構成員がその場に臨む意義は、そこに含まれない会員の意思を代弁し厳密に作られた資料によって会の活動、我々の姿勢を外に対して発信する決定を下す事であることを忘れてはならない。

我々の運動は多くの関係団体に支えられ、また出向という機会は会の特色の一つに数えられると思う。賀詞交歓会をはじめとした交流事業の必要性は外部の方々との円滑な関係性の構築にあり、その場だけの享樂に耽るのならば行う意味がない。そして出向は自身の可能性に対する機会であり、それを活用するか否かは個々の判断に任せる。しかし当会議所の一員として機会を得たならば、会の威信を負って行動する義務があると心掛けなければならない。

「目的をはっきりと自覚せよ。それだけで汝の人生は明確に変わる」という言葉を所信で述べている。漫然と会議や事業に参加し目的も意義も考える事無く、そして役職を得ただけで力を、自身を高められる筈が無い。会に対して不満を持つ者が居たとする。その不満を変革の原動力とするのなら喜ばしい事だが、外野的な揶揄だけで留まるのならば会を去るべきである。青年会議所には幾多の可能性があり、己の関わり方一つで得られる物は無限に変わる。鎌倉という地にある青年会議所だからこそ、入会を決めたのではないのか。この地に数多ある社会運動団体の中で、鎌倉青年会議所の会員である事に誇りと自信を持って活動をして欲しい。我々が目指すのは鎌倉らしい街であり、鎌倉らしい人と成る事である。そして鎌倉らしい青年会議所として輝ける発展を祈念すると共に、2013年の運動を共に行って頂いた全ての仲間に感謝申し上げる次第である。

## 副理事長報告

副理事長 川島 吉弘

私は本年度、まちづくり委員会担当副理事長の職を仰せつかりました。当委員会では年間を通じて計5つの事業があり、次年度段階から常に事業に追われるような目まぐるしい1年半だったと思います。

2月例会と鎌倉青年会議所の最も代表的な事業である5月例会「慈善茶会」では、メンバーのみならず多くの協力者に恵まれ、改めてその事業の大きさを感じ、また周囲の皆様にも助けられている事を実感致しました。10月に開催致しました鎌倉市長選挙公開討論会では、立候補予定者の出足が鈍く、判断に難しい局面もありました。そして、11月例会では快晴の下、これからの鎌倉を担うであろう世代と共に地域をより体感すべく事業を開催致しました。その中で私なりに感じた事は、この鎌倉のまちにおいて私たちの運動がどこまで浸透できているのか、果たして参加者の目線で事業が行えているのかという事です。もっともっと深く追求して今後の事業を展開していかなければ、市内に数多あるNPO団体などとそれほど変わらない、いち市民団体でしかないという危機感を強く持ちました。私もこのまま在籍をして40歳で卒業を迎えるとなると、既に折り返し地点を越えそれなりにこの会に対しての愛着もあります。しかし、私だけでなく会員一人ひとりが危機感を持ち、全ての会員が当事者意識を持って活動しなければならないと思うのであります。

副理事長職というのは決して楽なものではありません。決して表舞台に出ることなく、見方を少し変えると日の当たらない役職であると考えます。でもそれでも良いと思うのです。ただ、この役職が如何に重要であるかは会員の皆様にこの場を借りて投げかけたいと思います。

最後になりますが、副理事長という役職を下さいました酒井武士理事長はじめ渡邊智治副理事長、石渡隆雄専務理事、宮川委員長をはじめとするまちづくり委員会のメンバー、そして全ての皆様に感謝を申し上げ副理事長報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

**副理事長 渡邊 智治**

私は2013年度、酒井理事長が掲げる「精神一到」というテーマのもと、拡大研修委員会の担当副理事長として活動させていただきました。

当委員会では内海委員長のもと、会員の拡大と同時に会員の人間力の向上を目的とした事業を次年度段階から含め1年半行なってまいりました。

拡大に関しましては、前年度も担当副理事長として活動しましたが、決して満足の出来る結果は残せませんでした。その思いもあり、準備の段階から拡大公開委員会を開き、メンバーやOBに拡大情報を募り、その結果、皆様から積極的な情報提供を頂きました。

そしてかながわブロック協議会では会員拡大2000名必達プログラムというセミナーを毎月行い、21LOMが随時進捗状況を前に出て報告する過酷な状況のものでした。しかし、このような環境に身を置くことで拡大情報に常にアンテナを張り、1名でも多くの会員を入会させたいという思いが次第に強くなっていきました。

研修事業に関しましては様々な事業を行い、メンバーが自己研鑽する事で多くの学びを得ることが出来ました。そして、OBによる過去の事業を学ぶ勉強会では、入会間もないメンバーや入会希望者には青年会議所を知る貴重な場になったものと考えます。

最後になりますが、酒井武士理事長はじめ正副の皆様、内海委員長と拡大研修委員会の皆様、そして全ての皆様に感謝を申し上げ副理事長報告とさせていただきます。

## 専務理事報告

専務理事 石渡 隆雄

2013年度、私は専務理事を務めさせて頂きました。専務理事の職務は、理事長及び副理事長の補佐、総務交流委員会と財務の担当、内外の連絡調整等があります。専務として、何より大切な事は理事長を守る事、理事長を守る事は会を守る事になると教わり、自分に本当に務まるのかどうか不安でありましたが、一年間自分なりに努力し務める事が出来ました。ご協力頂きました多くの方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

担当させて頂きました総務交流委員会では、磯部委員長が中心となり委員会を纏め、素晴らしい結束力で、年4回の例会、総会、理事会の円滑の運営が行え、私の指導不足を補ってくれました。本当に感謝致します。

専務理事として、一年間辛い事や大変な事もありましたが、今思えば一年間色々な素晴らしい経験をさせて頂き、本当に楽しい一年間でした。

最後となりますが、専務理事という役職に任命して下さいました酒井理事長、共に活動してきた川島副理事長、渡邊福理事長、また、磯部委員長をはじめとする総務交流委員会メンバーの皆様、そして全てのメンバーの皆様に心から感謝を申し上げ、専務理事報告とさせて頂きます。

## 2013年度 委員会事業報告

拡大研修委員会

まちづくり委員会

総務交流委員会

## 拡大研修委員会

委員長 名：内海 修治

副委員長 名：大崎 厚郎

委員 名：黒木 伸太郎、二見 宏史、源 光士郎、メタ バラッツ、柳沢 大輔  
山内 英之、長野 トーマスマコト、渋谷 啓徳、吉村 桃実

### 1) 事業報告

#### (I) 会員拡大、オリエンテーションの実施

- (a) 内 容：会員拡大、青年会議所の基本概要の説明、新入会員の育成
- (b) 時 期：2013年 1月～12月
- (c) 対 象：会員拡大：新入会員13名 オリエンテーション：13名

#### (II) 会員の人間力を高め向上させる事業の開催 (1)

- (a) 内 容：研修の開催
- (b) 時 期：2013年 4月16日
- (c) 開催 場所：鎌倉商工会議所301号室
- (d) 対 象：正会員25名 ゲスト1名

#### (II) 会員の人間力を高め向上させる事業の開催 (2)

- (a) 内 容：研修の開催
- (b) 時 期：2013年10月14日
- (c) 開催 場所：公益財団法人 鎌倉婦人子供会館 鎌倉市小町1-11-5  
鎌倉市内
- (d) 対 象：正会員40名中 出席者21名

#### (III) 近隣LOMと共に会員の資質の向上を目的とした事業の開催

- (a) 内 容：3LOM合同例会の開催 (主管：鎌倉青年会議所)
- (b) 時 期：2013年 6月18日
- (c) 開催 場所：鎌倉プリンスホテル バンケットホール七里ヶ浜
- (d) 対 象：社団法人 逗子葉山青年会議所 正会員19名  
社団法人 藤沢青年会議所 正会員18名  
公益社団法人鎌倉青年会議所 正会員26名 ゲスト2名

(IV) 過去の事業を学び、50周年に向け今後の方向性を考える事業の開催

- (a) 内 容：勉強会の開催
- (b) 時 期：2013年 8月27日
- (c) 開催 場所：鎌倉芸術館 会議室1
- (d) 対 象：正会員23名 ゲスト2名 OB1名

2) 委員会報告

本年度拡大研修委員会では、来年50周年という節目を迎える大事な時期に、数多くの活動を行ってきた経験ある会員が卒業するため会員減少となり、入会間もない会員が多くなるという現状を踏まえ、より強固な組織基盤を作るべく「人間力の向上」を目的とした研修を行いながら会員を増やすことを目的に拡大事業を行いました。

拡大事業では対象者情報を会員・OBからはもちろん、地域の団体に出向くなどして広く集め、その情報を基に委員会を中心に勧誘を行いました。また、神奈川ブロック協議会による「神奈川ブロック～2000名会員復活プログラム～」にも毎月参加して会員の拡大活動への意識を高め、対象者と会員との相互理解を深める為の公開委員会や異業種交流会、またOBを講師に招いての入会説明会等を開催致しました。新入会員には要覧やバイブル、事業紹介冊子等のツールを活用し青年会議所活動について十分な理解をして頂く為のオリエンテーションを実施し、活動への意識を高く持って積極的に参加する会員の育成をしてみました。研修事業では当会員の「人間力の向上」を目的とする為に二つの事業を開催し、3LOM合同例会では鎌倉が主管という立場で近隣LOMの仲間たちと協力して事業を行い、また当会議所が来年50周年を迎えるにあたり諸先輩方が鎌倉という地で素晴らしい活動を行ってきた歴史を学び、これからのまちづくり運動への方向性を考える場を提供し、みんなで活発な意見を出しあいながら次年度へ続く未来を創造しました。

本年は13名の会員拡大の成果を挙げ、次年度以降も続く鎌倉青年会議所のまちづくり運動活動を行ってゆく為の一助になったことを確信致しました。

最後となりますが、ご指導いただきました酒井理事長をはじめとする正副理事長の皆様、温かくご指導いただいた当委員会担当の渡邊副理事長、励ましあい、時には意見をぶつけ合いながら事業を創り上げた委員会メンバーの皆様、新入会員拡大活動に率先してくれたメンバーの皆様、そして、鎌倉青年会議所すべてのメンバーの皆様に深く感謝を申し上げ委員会報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。



# まちづくり委員会

委員長名：宮川 史生

副委員長名：樋渡 悠浩

委員名：大西 広朗、荻野 洋基、木内 伊作、長南 光紀、長谷川 貴哉、牧田 芳明、  
松尾 崇、大谷 章、上島 寛弘

## 1) 事業報告

### (I) 慈善の意味を学ぶ事業の開催

- (a) 内 容：講演会および意見交換会の開催
- (b) 時 期：2013年 2月19日(火)
- (c) 開催場所：鎌倉商工会議所 地下ホール
- (d) 参加者：会員25名、OB(直前理事長)1名、入会希望者1名、  
淡交会鎌倉青年部3名、鎌倉女子大学茶道部2名

### (II) おもてなしの心を持って鎌倉への愛着を深める事業の開催

- (a) 内 容：慈善茶会の開催
- (b) 時 期：2013年 5月11日(土)
- (c) 開催場所：大仏殿高德院
- (d) 参加者：会員30名、OB(直前理事長含む)19名、入会希望者1名、  
お客様(茶券)541名、松林庵関係者12名、淡交会鎌倉支部32名、  
淡交会鎌倉青年部35名、鎌倉女子大学茶道部26名、鎌倉高校8名、  
七里ガ浜高校8名、深沢高校8名、大船高校14名、ぷれいす2名、  
鎌倉ユネスコ協会23名、こばとナーサリー18名、梓想庵1名、  
社会福祉法人清和会2名、鎌倉市地域作業所連絡会15名、  
鎌倉に震災銭湯をつくる会2名、World cafe@高校生3名、  
鎌倉きものプロジェクト～結～5名、参拝客約1,000名

### (III) 関係諸団体との信頼関係を深める事業の開催

- (a) 内 容：第45回慈善茶会後に懇親会を開催
- (b) 時 期：2013年 5月11日(土)
- (c) 開催場所：華正樓
- (d) 参加者：会員24名、OB(直前理事長含む)10名、入会希望者1名、  
協働団体関係者10名

(IV) 市民参画意識を向上させる事業の開催

- (a) 内 容：鎌倉市市長選挙公開討論会の開催
- (b) 時 期：2013年10月 9日 (水)
- (c) 開催場所：鎌倉生涯学習センター ホール
- (d) 参 加 者：会員23名、OB (直前理事長) 1名、入会希望者2名、  
市民参加者 144名

(V) 歴史的文化と豊かな自然の価値や大切さを体感する事業の開催

- (a) 内 容：市民参加の体験型事業の開催
- (b) 時 期：2013年11月 9日 (土)
- (c) 開催場所：浄智寺、源氏山公園
- (d) 参 加 者：会員23名、OB (直前理事長) 1名、入会希望者1名、  
市民：小学生46名 未就学児7名 保護者48名

## 2) 委員会報告

本年度、まちづくり委員会では委員会年間テーマを「かまぐらの未来を育む」と掲げて一年間活動してまいりました。

2月例会では、講演会とパネルディスカッションを通して参加者全員が「慈善」の意味を深く知ることができ、5月に開催される慈善茶会の成功を通して積極的にまちづくり活動に取り組む必要性を理解していただけたと考えます。5月例会(第45回慈善茶会)では、メンバー並びにOB・協働団体の皆様と共におもてなしの心でお迎えしたことで、参加者の皆様にこれまで以上に鎌倉らしさを体感して頂き、その魅力を感じていただけたことでこととを考えます。また、懇親会を通じてご協力頂いた皆様への感謝の意を表し広く深いコミュニケーションをとり、今後の慈善茶会ひいては当会議所の活動を支えて頂いている関係諸団体の皆様との信頼関係をより一層深めることが出来たと考えます。10月第一例会では、鎌倉市長選挙公開討論会を通して市民の皆様これまで以上に市政への興味を深めていただき、将来的な市民の主体的な市政参加へのきっかけとなったこととを考えます。しかし、市長選挙の投票率が前回から更に低下したことを考えると、単に公開討論会の開催だけではなく事前の広報活動から当日の運営・事後の投票前日までの活動をトータルで考えていくことが当会議所として必要であるとも感じました。11月例会の市民参加の体験型事業では、参加者同士がネイチャーゲームを通して交流を持ちながら、豊かな自然や歴史、鎌倉野菜などの地域ブランドを持つ鎌倉のまちにこれまで以上に魅力を感じただけ、まちへの愛着がさらに強くなったことで、参加者の子どもたちが自分たちの住むこのまちを好きになったこととを考えます。

本年度の5つの事業を通して、当委員会の掲げる年間テーマ「かまぐらの未来を育てる」の達成に繋がり、ひいては、我々のまちづくり運動をさらに継続・発展させていく一助となったことを確信いたします。最後となりますが、酒井理事長をはじめとする正副理事長並びに監事の皆様、委員会活動や例会を盛り上げていただいた委員会メンバーの皆様、そして一年間お付き合い下さいました全てのメンバーに感謝を申し上げ、委員会活動報告と致します。

# 総務交流委員会

委員長名：磯部 伸夫

副委員長名：森 秀樹

委員名：佐藤 忠之、竹生田 修、蓮見 太郎、平井 麻衣子、光山 英虎、  
御代川 洋平、山本 朋広、脇本 遼、永田 磨梨奈、橋本 航季、  
吉田 英之、日向 智則、杉浦 大介、斉藤 正朗

## 1) 事業報告

### (I) 会議の開催及び青年会議所運営全般

(a) 内容：総会並びに理事会の開催、鎌倉青年会議所の運営

(b) 時期：2013年 1月～12月

(c) 開催場所：鎌倉商工会議所202会議室他

### (II) 広報・渉外に関する事業

#### 【広報】

(a) 内容：ホームページの管理・運営、外部への情報発信

(b) 時期：2013年 1月～12月

#### 【渉外】

(a) 内容：①(公社)日本青年会議所の事業への参加

②関東地区協議会の事業への参加

③神奈川ブロック協議会の事業への参加

④出向者支援

⑤関係諸団体の事業への参加

(b) 時期：2013年 1月～12月

(c) 開催場所：①奈良県奈良市他

②栃木県宇都宮市他

③神奈川県内及び近隣地域

⑤鎌倉市内及び近隣地域

(d) 対象：①正会員12名 OB1名

②正会員6名

③正会員16名 OB1名

### (III) 交流会の開催

(a) 内容：①賀詞交歓会の開催

②メモリアルデーの開催

③次年度理事長を盛り上げる会の開催

④「年末式典・卒業式」・「卒業生を送る会(納会)」の開催

(b) 時期：①2013年 1月22日(火曜日)

②2013年 3月13日(水曜日)

③2013年 7月16日(火曜日)

④2013年12月17日(火曜日)

- (c) 開催場所：①鎌倉パークホテル 海星の間 翠雲の間  
②アマンダンブルー 碧  
③御代川鎌倉店  
④鎌倉華正楼

- (d) 対象：①正会員 25名 OB 32名 入会希望者 4名 来賓 30名  
来訪 JC 40名  
②正会員 23名 OB 24名 入会希望者 4名 事務局 1名  
③正会員 30名 OB 20名 入会希望者 1名  
④正会員 36名 OB 24名

## 2) 委員会報告

私たち鎌倉青年会議所は、地域に根差した団体として、その信頼に応えるべく活動していくことが必要です。そのような中で、本年度の総務交流委員会は、会の中核として組織の運営をバックアップし、また、会員の意識を共有し結束力の強い組織にすべく、的確かつ迅速な運営を心掛け一年間活動して参りました。

会議の開催及び青年会議所運営全般として、総会や理事会において、議事録作成、総会資料作成を含む諸会議設営を的確かつ迅速に行って参りました。その結果として、諸会議を予定時間内に円滑に運営することに寄与いたしました。

次に、広報事業では、ホームページの大幅なリニューアル作業に着手し、フェイスブックの導入をしました。これらを通じて、当会議所が行う事業の告知や事業報告の迅速な更新に努めたほか、会員が参加した各地青年会議所、市内関係諸団体の主催する事業についても積極的に掲載いたしました。また、更新の頻度を上げたことにより、入会希望者、市民に当会議所の活動内容について知っていただく機会を増やすことができたと考えます。渉外事業では、日本青年会議所をはじめとする各種事業並びに大会に参加する事で、各地青年会議所との関係を深めるとともに出向したメンバーをサポートすべく活動いたしました。また、市内関係諸団体の事業にも積極的な参加を促しました。結果として、各地青年会議所、市内関係諸団体との信頼関係を高める一助となりましたが、出向者のサポートとして、さらなる参加意識の高揚により出席者を増やすことが課題であると感じました。

交流事業では、年初の年末式典・賀詞交歓会については、厳粛な中で華やかさもあつた設営ができました。その他の交流会では、会場の雰囲気盛り上げOBとの交流を深めることに寄与できましたが、出席率が低迷してしまったこと及び準備不足が散見されたことが反省点であります。

本年度、委員長として不手際による反省点も多々ございましたが、年間の活動を通して、結束力の強い組織としての基礎を築く一助になったと確信致します。最後に貴重なご意見を頂き、長時間お付き合いいただいた会員の皆様、ご協力、ご参加いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げ総務交流委員会報告といたします。